

学校評議員運用に関する報告書(2・3学期)

月 日	意見を求めた事項	評議員氏名	意見の概要	処 理
3月6日	学校自己診断結果 本年度の教育内容 次年度の教育内容 (上記に関して、包括的にご意見やご提言を頂いた)		(会議案件) 学校自己診断結果について 本年度の教育内容について 次年度の教育内容について	
		田中	・中学校方転地での金剛バスの転回について、生徒・保護者(お迎えの車)とバス関係者の優先順を確認すべき	来年度、通知等により、保護者への徹底を図る
		田中	・スクールバスについては、小吹台地区のみでなく他の地区の生徒も平等に利用できた方がよい	村教委に継続検討を依頼する
		杉本	・スクールバスの運営については、一度白紙に戻し、幼稚園や小学校も含めて検討すべき	
		田中	・土曜参観および講演会で来校した際、小さい子どもを連れてきた保護者で、子どもの管理ができておらず、授業や講演会等で周囲に迷惑であった。親の教育が必要か?	PTA総会等で状況を説明し、保護者に協力を願う
		山本	・保護者が数年前とはかなり変わった。以前のような感覚ではなくなっている人も多い。学校の校則を守らなくてもいいと言う親がいる。	職員会議等で生徒指導における学校の方針については、繰り返し確認する
田中	・個が先になり、集団を見ない生徒や親が増えている			
杉本	・校則が全て正しいとは思わない。表面的な部分(服装・頭髪など)と社会性(人として大切な事)は分けて考える ・個人の自由は自分の行動に責任を持てるようになってから ・学校のルールは社会に出ていくまでの教育の一つ			

	田中	<ul style="list-style-type: none"> 部活動について、学校の負担も大きいので、村全体で外部指導者や外部団体を活用し、子どもたちの選択肢を増やして、幅広く活動できるようになればよい 	将来的に必要な措置であることを村教委に報告する
	田中	<ul style="list-style-type: none"> スマホやSNSの利用で、子ども同士、子どもと親で会話が非常に少なくなっている。SNSのやりとりの中でトラブルも多いし、できるだけお互いに顔を見て、表情を感じながら会話する事が重要になってきている。親も子どもの表情から、子どもの心の状態をもっとつかむべき 	保護者と生徒がスマホ等の使い方について、学ぶ機会を設ける（講演会の開催）
	山本	<ul style="list-style-type: none"> 親子でのコミュニケーション不足を感じる。もっとコミュニケーションをとるべき。スマホやSNSの利用方法が課題。塾の送迎のときなど子どもと会話をする時間を決めても良いと思う 	
	杉本	<ul style="list-style-type: none"> 文明の力が人間の生活に悪影響を与えている部分もある SNSやライン等の利用で単語でのやりとりが増え、文章を作れない、うまくしゃべれない（説明できない） 顔を見て話す必要性を感じる 	
	山本	<ul style="list-style-type: none"> 3学期学年末テストの2年生の理科で、解答用紙にかなりの間違い（訂正）があった。2年生の保護者から教科内など点検する機会を設けているのか確認して欲しい 	各教師がまずは自己点検し、教科内でも点検するよう指導する
	杉本	<ul style="list-style-type: none"> 職業体験学習で生徒に話をしたときの生徒の感想に、杉本さんの話はわかりやすいと書いている生徒が何人もいた。中学校の先生の話し方は大丈夫なのか気になる。 	生徒が理解しやすい話し方も含めて、授業研修で徹底していく
	杉本	<ul style="list-style-type: none"> 文明の力が人間の生活に悪影響を与えている部分もある SNSやライン等の利用で単語でのやりとりが増え、文章を作れない、うまくしゃべれない（説明できない） 顔を見て話す必要性を感じる 	指摘の意見を職員会議で報告する

1. 評議員氏名欄には意見を求めた評議員の氏名、または会議の場合は会議と記入する。
2. 意見の概要の欄には、会議の場合、最初に（評議員名）を記入し、その後に意見の概要を記入する。
3. 処理欄には、意見を求めた後の処理（職員会議へ報告、文書で職員へ周知等）を記入する。